

班	講 評
16	<p>良く書けている方と、ただ出題の要件を形式的に満たそうとした方の差がはっきりと出ました。テーマについてよく考察し、論文としてまとまっている方については相対的に高い配点がされています。</p> <p>一方でこれは研究論文ですから、例えば第 1 章で在庫価値毀損のリスクを挙げたにも関わらず、第 2 章で理由もなく賞与引当金に話が変わるような場合や、ほとんどが有価証券報告書や予備校のテキスト・委員会報告書の転記に終始しているような場合は相対的に点数が下がっています。</p> <p>せっかくの課題研究という機会ですから、これを通じて、「自分自身の考察も交えつつ、全体の整合性を取りながらアウトプットする」という公認会計士に必要な能力を磨いて頂ければ幸いです。</p> <p>なお、会計上の見積り項目といえども早ければ 1 年目から担当することもあり得ます。この機会に監査計画の段階、リスク評価の段階、実証手続の段階でそれぞれどのような手続を踏むのか再確認しておくといでしょう。お疲れ様でした。</p> <p>選択した会社の状況については、全体として一定程度の記載が行われていました。しかしながら、決算期誤りや、分析にあたって有報を読んでいないと思われる記載も見られました。また会社のビジネスの状況から選択された見積り項目、それに対する監査手続をうまく関連付けて記載することができていた論文については、高い評価を付けました。一方で選択されている見積り項目が、明らかに見積り項目でないものや出典と参考文献の区別ができていないもの、表紙のチェック漏れがあるものなどは低い評価となっています。必ず論文の末尾に参考文献と出典を分けて記載するようにし、提出前に形式的な漏れがないかチェックするようにしましょう。</p>
17	<p>第2回課題研究の趣旨はクライアント理解によるビジネスリスクの把握から、財務諸表の重要な虚偽表示リスクの識別につなげてリスク対応手続を策定するという監査の一連の流れについて、会計上の見積りに論点を絞り考察してもらうことにありました。</p> <p>全体的にクライアント理解とリスク評価(見積り項目の選定)が上手く結びついていない印象を受けました。会計上の見積りに対する監査手続については、全体的によく考察されていた印象ですが、監査を効果的かつ効率的に実施するためには企業理解、リスク評価、リスク対応手続の 3 つを結び付けて考える必要があります。</p> <p>これから期末監査の現場に入る方も多いと思いますが、是非上記の監査の一連の流れを意識して業務に励んで下さい。</p> <p>本課題研究は、任意の上場会社を選択し、会社のビジネスの状況やリスクを把握したうえで、会計上の見積り項目を 3 つ示し、それらに対し実施すべきと考える監査手続や留意点を具体的に述べよというのですが、課題研究の作成にあたっては以下の様な点に留意する必要があったと思われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会計上の見積りの選択が、会社のビジネスの状況やリスク把握と関係しないものとなっているケースが多かったと思われます。個々の会社に存在するリスクからどのような見積りにリスクが存在するのかを把握し、それに対し必要な監査手続を検討することが本課題研究で求められていることかと思えます。</li> <li>・監査手続について、実証手続が中心の記載となっている課題研究が多かったかと思えますが、監査計画段階、リスク評価手続、実証手続それぞれの段階において述べられるとより良い課題研究となるかと思えます。</li> </ul>
18	<p>今回のテーマでは、各会社の会計上の見積り項目に対する監査手続や留意点を「具体的」に記述することが求められていた。しかし、基準の本文の引用、要約した記述が多く、何ら具体性のないものが散見された。一方で、各企業のビジネス、環境等を具体的に記述している論文については高得点をつけた。論文の文字数が少ないため、無駄な論述を省き、テーマに沿った論述を心がけること。</p> <p>会計上の見積りの監査に限らず、監査人は監査計画策定にあたり、会社のビジネスを適切に理解し、ビジネスリスクを網羅的に識別する必要があります。第 2 回課題研究では、皆さんが選定した会社のビジネスの理解から、どのような会計上の見積りに関するビジネスリスク(固有リスク)が識別され、どのように監査手続を設計するのか問われています。この点について、指定された 3 つの会計上の見積りに関して適切に論理展開されていた課題研究は少ない状況でした。今一度、ビジネスリスク(固有リスク)の識別の過程について、監査基準委員会報告 315 号の十分な理解が必要と感じています。</p> <p>なお、優良事例として、同業他社の不正事例からビジネスリスクを導出している課題研究や、会社のビジネスを理解するために有価証券報告書の「事業等のリスク」を参照していた課題研究があったことをお伝えいたします。</p>

<p>19</p>	<p>全体として、具体的かつ正確な記述がなされており、出題意図に沿った内容になっていました。今回の課題研究のテーマは「会計上の見積り」であり、まだ実務で経験したことのない方が大半かと推察します。今回の課題研究で学んだことを今後の実務で生かせるよう、必要に応じて今回の答案を見返していただくとよいと思います。</p> <p><b>【形式面】</b>                  ページの記載がないもの、引用部分に引用符がついていないもの、誤字脱字が多数見受けられるもの、表紙のフォーマットがきれいに印字されていないものがありました。</p> <p>課題研究作成の規則を再確認するとともに、課題研究提出前に内容をセルフレビューすることが望まれます。</p> <p><b>【内容面】</b>                  2400 字という制約の中で、①会社のビジネスの状況、②会社のビジネスのリスク、③会計上の見積り項目を3つ例示、④それぞれの見積り項目に対する留意点を網羅的に記載するのはかなり難しかったと思われます。現状の調書作成時には、必要な項目は全て網羅することが求められ、記載すべき項目を削除することを求められることは決してありませんが、うまく最低限必要な項目を拾って記載している課題研究を評価しております。なお、通常会計上の見積りにはバックテストの手続が求められますので、それを想定して実務に当たってください。</p>
<p>20</p>	<p>有報や監基報からの引用が多く、全体的に出来が良くなかったです。</p> <p>テーマは会計上の見積り項目について「あなたが実施すべきと考える監査手続や留意点」ですので、もっとテーマに沿ってご自分の考えを記載していただきたかったです。</p> <p>また、今回は形式面での減点も散見されました。ページ数の記載漏れや誤字脱字、段組みの不備等で減点されてしまったのはもったいないので、提出前に再度形式面を確認するようにしましょう。</p> <p>手続についての記述で各人に差が出た。                  不正について触れられている答案が少ないのは残念。                  手続については、リスク評価→対応手続の流れの中で監査計画の立案を意識するとよい。</p>
<p>62</p>	<p>文字数が 2,400 文字と少ない中、コンパクトに論点をまとめたうえで論述できているレポートが多かった点評価できません。</p> <p>会計上の見積り項目は、その他の科目よりリスクが高いエリアであるため、各補習生も実際の現場では、しっかりと科目の特性や見積り要素を把握したうえで、しっかりと監査手続が立案され実施できているかどうかを注意して下さい。</p>